

事務事業名		担当		第一子育て支援センター	
政策名		増補版施策名			
施策名		☐ 実施計画上の主要事業			
関連個別計画		事業期間		☐ 単年度のみ	
法令根拠				☒ 単年度繰返（開始年度 1 2 年度～）	
予算科目				☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）	
事業概要		「愛情と思いやりに満ちた三つ子の魂」育成の重要性について平成12年度から啓発活動を行っている。 ・子育て中の保護者、一般市民対象への啓発活動・講演会等を通して三つ子の魂育成の重要性について啓発している。 ・市内の保育関係者から懇談会で広く意見を求め、子育て支援の充実を図っている。 ・子育て支援のための情報紙を作成し、妊娠届出時、出生届出時、乳幼児健診等で配布している。			

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動）		⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
31年度実績 ・乳幼児の保護者、子育て支援に携わる方、一般市民向け、愛情と思いやりに満ちた三つ子の魂育成の重要性についてミニ講話などを通し啓発を行った。 ・三つ子の魂育成講演会は、NPO法人日本わらべうた協会理事長の田村洋子氏を招き「未来につなぐわらべうたあそび」と題し、わらべうたや昔の遊びなどを教えていただき、親子で楽しむことができた。 ・本市の子育て支援制度などをまとめた「子育てガイドブック」をはじめ、子育て情報紙を作成し、妊娠届出時や乳幼児健診等で配布した。		名称		単位	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(実績)	32 年度(見込)
		ア 啓発活動や講演会など回数			115	111			
		イ 啓発資料配布数			5,254	5,047			
		ウ マタニティカード配布数			658	660			
		エ 赤ちゃんの駅			12	12			
32年度計画 ・三つ子の魂育成推進室の廃止に伴い、ミニ講話、三つ子の魂育成講演会は廃止。「子育てガイドブック」をはじめとする子育て情報誌は、こども家庭課の子育て支援センター事業で作成し、配布は継続する。		オ							
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 ・妊婦・乳幼児の保護者・子育て支援者・一般市民		⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
		名称		単位	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(実績)	32 年度(見込)
		ア：市民			79,422	79,542			
		イ							
		ウ							
		エ							
		オ							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） ・人格の基礎が培われる胎児期から乳幼児期に、「あたたかい三つ子の魂」を育む重要性を認識してもらう。		⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
		名称		単位	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(実績)	32 年度(見込)
		ア：啓発活動の参加人数			2,777	3,566			
		イ：講演会の参加人数			117	98			
		ウ							
		エ							
		オ							
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） ・心身ともに健全な三つ子の魂の育成を図る。		⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
		名称		単位	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(実績)	32 年度(見込)
		ア 三つ子の魂を育んでいる割合			100	100			
		イ							
		ウ							
		エ							
		オ							
(2) 総事業費の推移		単位	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(実績)	32 年度(見込)		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	0	
		一般財源	千円	1,463	848	0	0	0	
		事業費計 (A)	千円	1,463	848	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	0	0	0	
		延べ業務時間	時間	490	490	0	0	0	
		人件費計 (B)	千円	2,035	2,034	0	0	0	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	3,498	2,882	0	0	0	
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等									
①この事務事業を開始したきっかけは何か？いつごろどんな経緯で開始されたのか。		・全国的に青少年犯罪や乳幼児虐待が後を絶たず、子どもたちを心身ともに健全に育てるためには、乳幼児の保護者や一般市民に、あたたかい三つ子の魂を育むための啓発をする必要が生じたため、平成9年度に「三つ子の魂育成計画」を策定し、平成12年から啓発活動を実施した。							
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは 5 年前と比べてどう変わったのか？		・景気の悪化から雇用不安などが増大し、子育て環境も厳しい状況である。 ・核家族が増え、また地域とのつながりも希薄になる中、保護者の育児ストレスが増し、子どもの生活リズムがくずれ、情緒不安定な子どもたちの姿がみられるなどの悪循環が生まれている。そのような中、子育てにとって重要な三つ子の魂育成のための啓発事業の必要性は、年々高まっている。平成30年度からは三つ子の魂育成推進室の廃止に伴い、啓発事業の一部（情報誌作成・発行）を子育て支援センター事業に移管していく。							
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？		・子どもたちの体内時計は、生活のリズムが大切であることを知り、大人の時間と区別しなくてはならないことを知った。（2 歳児検診） ・良い子を育てることは、子どもの良さを認めてあげて自信を持たせることを学べた。（にのみや支援センター） ・ミニ講話などを聞くことで、自分の子育てを見直すことができた。（子育て支援センター）							